

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表  
(地域公共交通調査等事業)

令和6年2月28日

北海道運輸局

協議会名: JR釧網本線維持活性化実行委員会

協議会名	①事業の結果概要	協議会における事業評価結果		地方運輸局における 二次評価結果	備考
		②事業 実施の 適切性	③事業の今後の改善点 (特記事項含む)	評価結果	
JR釧網本 線維持活 性化実行 委員会	1. 公共交通利用実態調査の実施、鉄道・バス共通時刻表制作 ・JR釧網線沿線自治体居住者800人(18歳以上・高校生除く)を対象とした公共交通の利用実態に関する調査表を送付した。235人から回答があり、釧網線の日常的な利用(週2日以上)が0%などの結果が出た。 ・JR釧網線沿線自治体高校生380人に学校を通じて、公共交通の利用実態に関する調査表を配布した。72人から回答があり、通学時間が平均72分であることなど通学実態を把握することができた。 ・公共交通の利用実態・意向調査の実施にあたり、鉄道とバスの時刻が一目で確認できる共通時刻表を制作し、調査対象者へ配布するほか、駅、主要バスターミナル、公共施設等にも掲出した。 A3パンフ 11千枚、B2ポスター 150枚、B1ポスター 60枚	A	・アンケート調査の結果分析から見える情報を基に、今後の事業展開を検討する必要がある。	・事業は計画どおりに実施されている。 ・今後、持続可能性と利便性の高い地域公共交通への再構築に向けて取り組んでいただきたい。	
	2. 観光利用に関する意向調査の実施 ・調査会社のWEBモニター向けにアンケートを実施し、過去5年間で観光旅行で釧網線を利用した者という条件で216人から回答を得た。	A	・アンケート調査の結果分析から見える情報を基に、今後の事業展開を検討する必要がある。		
	3. くしろ湿原ノロッコ号実証運行 ・10/8.9の2日間に釧路湿原駅に約1時間停車し、細岡展望台から夕陽を眺めるノロッコ号を運行。 ・10/13~15の3日間に夕陽の時間帯に合わせた夕陽ノロッコ号を運行(10月は初めて)。 ・列車運行日に調査員が乗り込み、乗客に調査表を配布し、672人から回収した。 ・ノロッコ号の指定席料金の現行以上の価格の受容度は60%となるなど意向を確認した。 ・利用回数はじめてが67%と高く、32%がこのノロッコがなければ釧路湿原にいかなかったと回答し、誘発が高いと考えられる。 ・目標150人/便→結果168人/便	A	・一定の効果があることが確認されたため、特別なノロッコ号運行回数の増加を検討。 ・高単価についての検討。		
	4. いつもの列車で観光気分周知強化の実施 ・沿線観光情報の自動音声ガイドを周知するシールを釧網線を走行する54形車両13両の各座席窓下に貼付け。 ・目標アプリアクセス数前年度比10%増→結果395%(8.9月)	A	・一部普通列車で車窓が楽しめる区間の減速運転を実施。 ・パンフレット等での周知。 ・H100形での周知の検討。		
	5. サイクルトレイン実証運行 ・9/3に団体臨時列車で釧路駅~川湯温泉駅間運行。 ・上級者・初級者にコースを分けてモニターツアーとして実施。 ・目標22人→結果21人 1両あたりの最大積み込み数11台を目標としたため、わずかに達成していない。	A	・自立化に向けて費用を抑える実施方法の検討。		